

～みんなにやさしいまちに～
さいたま市福祉のまちづくり
モデル地区推進事業 活動報告書
〈令和4年度〉



令和5年3月
さいたま市福祉のまちづくり
モデル地区推進部会

<目 次>

I. モデル地区推進事業	1
II. 日進北小学校での具体的活動内容	3
III. 参加者の声から	13

I. モデル地区推進事業

1. 目的

- この事業は、平成16年3月に制定した「だれもが住みよい福祉のまちづくり条例」に掲げる目的である「だれもが心豊かに暮らすことのできるユニバーサルデザインの都市の実現」のための一つの方策として、モデル地区を設定し、ハードとソフトが一体となった総合的な福祉のまちづくり活動を行うものです。

2. これまでのモデル地区推進事業

- 平成18年度から平成21年度までについては、本市の交通バリアフリー基本構想の重点整備地区に指定されている浦和駅周辺地区・北浦和駅周辺地区・大宮駅周辺地区での活動を優先的に取り組んできました。

- 浦和駅西口地区 : 高砂小（平成18年度）
- 浦和駅東口地区 : 仲本小（平成19年度）
- 大宮駅東口地区 : 大宮小（平成20年度）
- 大宮駅西口地区 : 桜木小（平成21年度）

- 平成22年度から平成26年度の期間については、モデル地区推進事業の対象を、交通バリアフリー基本構想にとらわれることなく柔軟に対応しました。

- 下落合小（平成23年度）
- 大谷場中（平成24年度）
- 岩槻中（平成25年度）
- 大宮北小（平成26年度）

- 様々な地域における小中学校の協力のもと、年1回モデル地区推進事業を実施してまいりましたが、安定した参加者数を確保できない点が課題でした。

そこで、平成27年度から令和2年度の期間については、地域の自治会、民生委員・児童委員、PTA、保護者、地区社会福祉協議会、NPO等に対して働きかけを強化し、よりモデル地区推進事業を拡大することで、地域ぐるみで福祉のまちづくりについて学び合う場を作ることを目指しました。

- 神田小（平成27年度）
- 植水小（平成28年度）
- 海老沼小（平成29年度）
- 北浦和小（平成30年度）
- 大牧小（令和元年度）
- 新型コロナの影響により中止（令和2年度）

- 令和3年度以降は引き続き、地域ぐるみで福祉のまちづくりについて学び合う場を作ることを目指しつつ、地区の選定にあたっては、「さいたま市バリアフリー基本構想」で位置づけられた、重点整備地区及び推進地区を優先的にモデル地区として選定し、取り組むものとなりました。

- 新型コロナの影響により中止（令和3年度）

3. 活動イメージ

- 児童や保護者、地域の方々とともに、当事者との交流、障害等の体験学習、まち歩きによる点検、学び合いなどを行います。
なお、小・中学校での学習は、各学校のスケジュールやカリキュラム等と連携して行っています。

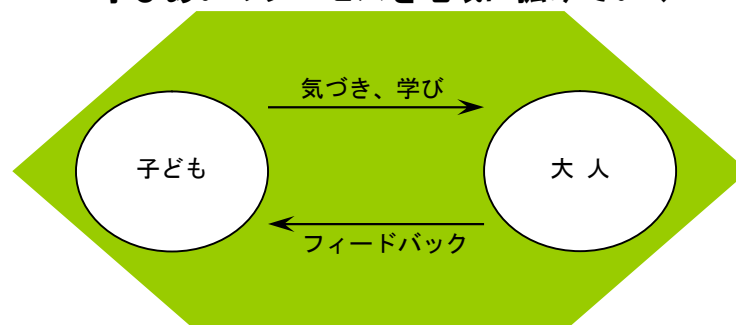
4. 組織

- 「さいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進部会」は、「さいたま市福祉のまちづくり推進協議会」の中に設置された部会で、NPO、福祉関係団体、交通事業者、市民代表によって組織され、モデル地区推進事業を展開しています。

5 学び合いのイメージ

- 子どもたちに福祉のまちづくりを伝えて気づきを促し、その豊かな感性から生まれるアイデアを大人たちに伝え、再び大人たちからのフィードバックを受け取るという学び合いのプロセスを実現し、一定期間継続することで、地域に広がっていく活動を想定しています。

学び合いのプロセスを地域に広げていく



Ⅱ. 具体的活動内容

モデル地区推進事業は、学校の総合的な学習の時間を利用して、さいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進部会委員をはじめ、障害のある方や市福祉関係団体等の協力を得て、福祉のまちづくりをともに学びあえる機会をつくり、地域に暮らす保護者や住民等に参加を呼びかけ、実施しています。

学校では、障害のある方や関係者等の方々からの聞き取り学習や、アイマスクや車いすを使用しての各種体験学習、まち歩き学習、学習発表会など多様で総合的な学び合いのなかで、「心のバリアフリー」に取り組んでいます。

令和4年度は、北区にある日進北小学校にご協力をいただいで実施しました。

日進北小学校での取組について

日進北小学校では、5年生（132名）を対象に実施しました。

(1) 取組の概要

【参加者】

さいたま市福祉まちづくり推進協議会委員の他、視覚・聴覚・知的の各障害者団体、地区社会福祉協議会、市社会福祉協議会、市社会福祉事業団などが参加しました。

【テーマ ～みんなで歩むこれからの日進～】

日進地区とさいたま新都心駅周辺、バリアフリーの整備状況が異なる2つの箇所を比較するなど、「皆が住みよいまち」について深く実感し、自分達のまちがどのようになっているってほしいかを考えていきました。

【実施計画】

過程	子ども達の活動	
ふれる	<u>ふれあい学習</u>	・ 高齢者や障害者の方と接し、バリアフリー等についてより詳しく知る。 ⇒課題決定
つかむ	<u>まち歩き学習</u> (学校周辺) 自分たちのまちについて考える	・ どのようなところにバリアフリーがあるか。 ・ バリアフリーが必要な場所はどこか。 ・ 自分たちにどのようなことができるか。 ・ 自分たちのまちに課題はないか。 ・ ユニバーサルデザインやバリアフリーについて、身近な地域の見学や歩行体験を行い、課題を追及する。

深める	まち歩き学習 (さいたま新都心駅周辺)	<ul style="list-style-type: none"> ・日進地区とさいたま新都心駅周辺、バリアフリーの整備状況が異なる2つの箇所を比較することで、「皆が住みよいまち」について深く実感し、自分達のまちがどのようになっていってほしいかを考える。
	調べる 自己学習	<ul style="list-style-type: none"> ・障害を持つ人の、よりよい生活の仕方を考える。 ・街中の施設や店、駅、道路にされている工夫などを調べ、自分たちのまちに生かせないか考える。 ・バリアフリーやユニバーサルデザインについて考える。
まとめる	『みんなで歩むこれからの日進プラン』 を考える 自己学習	<ul style="list-style-type: none"> ・日進地区に住む全ての人々にとって、「便利・住みやすい・安心」なまちはどのようなまちか、その方法を考える。 ・これからどのように歩いていくか、自分なりに考える。 ・自分たちがすぐにでもできること、ということを考える。 ・偏見や差別をしないこと、知らない人にも教えること、正しく使うこと。
	学習発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通じて感じたことを交流しあい、自分ができるようなことに取り組んでいく意欲を高める。

※令和4年度については、日進北小学校での学級閉鎖への対応に伴い、「まち歩き学習（さいたま新都心駅周辺）」を「まち歩き学習（学校周辺）」より前の日程で実施しました。



(2) ふれあい学習

日程：令和4年11月15日（火）

会場：日進北小学校各教室・体育館・学習室

参加者：児童、障害者団体等

講師等協力団体：

NP0 法人さいたま市視覚障害者福祉協会、さいたま市聴覚障害者協会、一般社団法人さいたま市手をつなぐ育成会、NP0 法人ライフアシストファミリッシュ、地域包括支援センターゆめの園、日進地区社会福祉協議会

内 容

【目的】


- ・当事者の方々と直接ふれあうことで、障害等について関心をもち、その特性などを理解する。



【ねらい】

- ・自分と異なる感覚や暮らしの方法があることを、交流を通じて理解する。
 - ・疑似体験により暮らしの中で何がバリアなのか知る。
- ⇒児童や周りの大人が、普段なかなか出会ったり関わったりしない方との交流により、当事者について考えたり、気づいたりできる「きっかけ」にする。

【活動内容】

- 当事者等が自身についての話をし、自分達の生活や想いを児童に伝えました。
 - 当事者が普段使用している道具に触れるなどの各体験等の学習を通して、それぞれの特性について理解を促す。
- ⇒児童の関心をさらに引きつけ、生活についてイメージできる「きっかけ」にする。

	学習内容	学習の様子
視覚	<ul style="list-style-type: none">・2人1組となり、アイマスクと白杖を身に付け視覚障害の体験と介助者の役割も体験し、声掛けの大切さを学びました。・児童が当事者へ質問し、外出時に注意していることや普段の生活の様子について学びました。	

聴覚	<ul style="list-style-type: none"> ・手話によるあいさつや要約筆記について学びました。 ・児童が当事者へ質問し、目覚まし時計の使い方など、普段の生活の様子について学びました。 	
知的	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストボードや身近なキャラクターなどを用いて、知的障害について理解を深めました。 ・写真を用いて当事者について学びました。パニックになったときでもやさしく見守ってほしいことなどを学びました。 	
車いす	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者や講師からの話を聞き、車いす使用者の生活状況や、必要な支援などについて学びました。 ・二人一組になり車いす体験と介助の仕方を学ぶほか、電動車いす体験をしました。 	
高齢	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズやデモンストレーションを通じて、高齢者の日常動作や接し方について学びました。 ・講師からの話を聞き、高齢者の身体状況などについて学びました。 	

(3) まち歩き学習 (さいたま新都心駅周辺)

日程：令和5年1月17日(火)

会場：さいたま新都心駅 けやき広場等

参加者：児童、NPO 法人さいたま市視覚障害者福祉協会、さいたま市社会福祉事業団

講師等協力団体：さいたま新都心ふれあいプラザ

内 容

【目的】

・日進地区とさいたま新都心のバリアフリーの整備状況が異なる2つの箇所を比較することで、「だれもが住みよいまち」について深く実感し、自分達のまちがどのようなようになっていってほしいかを考える。

⇒自分たちのまちを住みよくするにはどうすればいいのか、考えるきっかけや気づきを促す。

【ねらい】

・バリアフリーの整備状況が異なる箇所を実際に歩くことで、バリアやバリアフリーについて理解を深める。

【活動内容】

○さいたま新都心駅周辺の点字ブロックやエレベーター、多機能トイレなど、バリアフリーの整備状況について、まち歩き体験を行いました。

○だれもが住みよいまちにするためにどのような工夫がされているか学びました。



(4) まち歩き学習 (小学校周辺)

日程：令和5年2月2日(木)

会場：日進北小学校周辺・体育館

参加者：児童、保護者の方、障害者団体等

講師等協力団体：

NP0法人さいたま市視覚障害者福祉協会、一般社団法人さいたま市手をつなぐ育成会、NP0法人ライフアシストファミリッシュ、地域包括支援センターゆめの園、日進地区社会福祉協議会

内 容

【目的】

- ・ 障害等の体験により歩きなれた道（日進北小学校周辺）について視点を変えることでギャップを実感する。
- ・ 当事者の方と交流しながら歩き、その方たちがどのように感じているのか知る。
⇒自分たちのまちを住みよくするにはどうすればいいのか、考えるきっかけ、気づきを促す。

【ねらい】

- ・ 実際にまちを歩くことで、自分たちのまちのバリアやバリアフリーについて理解する。
- ・ 一人ひとりの能力がハンデの原因なのではなく、環境（バリア）が、ハンデを生むことに気づく。

【活動内容①】

○学校周辺のまち歩き

グループに分かれて、児童が障害当事者の方などと共に歩き、まちを歩く上での不便さを質問したり、疑似体験グッズを使用したりすることで、歩き慣れた道におけるバリア等について、多くの気づきを得られました。



【活動内容②】

○グループミーティング

自分たちのまちを歩いてみて児童が感じたこと、考えたことをグループミーティングの場での質問や意見交換を通じて、情報共有を図りました。



(5) 学習発表会

日程：令和5年2月28日（火）

会場：日進北小学校体育館

参加者：児童、保護者、障害者団体等

講師等協力団体：

NPO 法人さいたま市視覚障害者福祉協会、一般社団法人さいたま市手をつなぐ育成会、NPO 法人ライフアシストファミリッシュ、地域包括支援センターゆめの園、日進地区社会福祉協議会

内 容

【目的】

- ・自分たちのまちを「皆が住みよいまち」にするためにはどうすればいいのか、考え、行動していく、という福祉のまちづくりを地域に拡げていくきっかけとする。

【ねらい】

- ・児童の豊かな感性から生まれるアイデアや気づき、子どもだから言える素直な意見を大人たちに伝え、日進地区に住む全員が考えるきっかけにする。

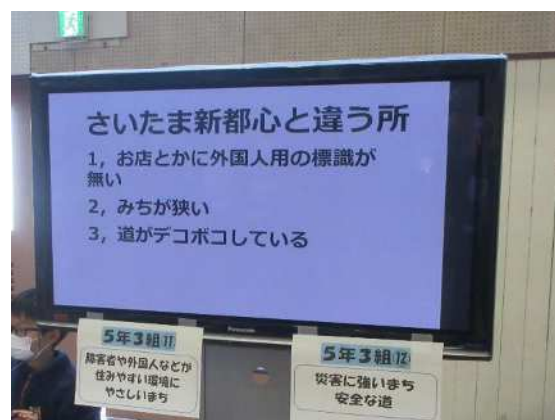
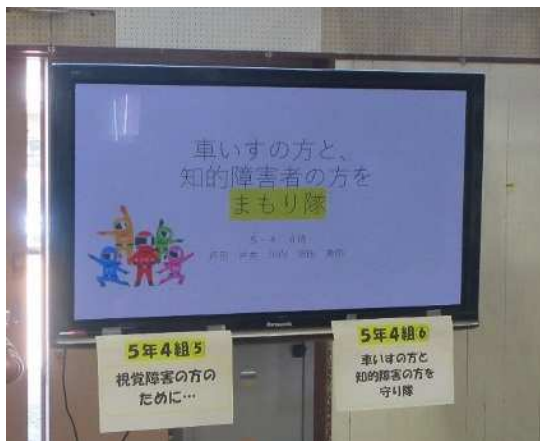
【活動内容】

- 体験等の経験をもとに、日進地区の課題等に対する自分の考えを発表しました。
- 講師等からの感想や講評を通じて、フィードバックを行い、学び合いを実施しました。

発表の様子



発表資料 児童が調べ考えた「みんなで歩むこれからの日進」のプラン



(6) 今年度の事業を終えて

日進北小学校におけるモデル地区推進事業については、ふれあい学習、学校周辺のまち歩き学習のほか、さいたま新都心でのまち歩き学習の実施、学習発表会では児童がタブレット等を活用してグループ発表を行うなど、学校や関係者の協力を得て、新型コロナの影響により令和2年度、令和3年度と中止となっていましたが、3年ぶりに事業を実施することができました。

学校周辺のまち歩き学習では、段差や坂道などを含めた形でコース設定を行うことで、児童がバリアを感じられるよう工夫した他、点字ブロック等の設備について説明を行う機会を設けることで、バリアフリーについてより深く学べるようにしました。

学習発表会では、児童がこれまでの学習を通じて感じたことや学んだこと踏まえて、「自分たちのまちをより住みやすいまちにするにはどうすれば良いか」をテーマに考え、タブレット等を活用してグループごとに発表を行いました。また、発表会には多くの保護者の方にもご参加いただき、福祉のまちづくりについて児童と共に学び合うことができました。

一方、ふれあい学習やまち歩き学習では学習時間が限られており、体験学習や障害当事者の方が普段どういった生活をしているのか、限られた時間の中でどのように児童に伝えていくかという課題がありました。また、学習発表会においては、新型コロナの感染症対策のためマスクをしていることもあり、「児童の声が聞取りづらい」、「体育館で一斉の発表のため、他の発表をあまり見ることができなかった」などの意見もありました。

今後も、学校側をはじめとして、各関係団体等の理解と協力を得ながら、事業の改善・充実を図っていきます。

さらに、学校主体で事業が継続されるよう、各関係団体等の協力をいただきながら必要な支援を行っていきます。

参加者の声から

ふれあい学習 参加者アンケート（抜粋）

11月15日（火）

1 今回の授業（ふれあい学習）に参加してのご感想をお聞かせください

- ・久々のふれあい学習だったため、時間の配分が難しかったです。最終的に体験できない生徒さんが出てしまったのは反省点です。
- ・3年ぶりの開催で不安なこともあったが、子供たちが積極的に体験に参加してくれ、熱心に話を聞いてくれて嬉しかった。
- ・地域の方や関係機関の皆様と参加させていただきました。このような機会は初めてのことでしたが、子供たちと「福祉」や「子供からお年寄りまで誰もが幸せに暮らせる地域、支え合いの地域」について改めて考える貴重な機会となりました。地域包括支援センターは、地域の高齢者の身近な相談窓口であり、子供たちにも地域にそのような場所があることを知っていただく場にもなり良かったと感じました。

2 児童の気づきや言葉で印象に残っていることがありましたらお聞かせ下さい

- ・「寝るときも車いすの上なの？」という質問が大変面白かったです。大人では発想できない質問なので、ふれあい学習ならではのものだなと感じました。あと、面白かったという声は聴けましたが、面白かっただけで終わらないようにしっかりと伝えることは伝えていきたいなと思いました。
- ・「一番大変なことは、何でしたか？」という質問があり、今まで受けたことのない質問だったが、私たちにとっては、ありがたい質問で印象に残った。
- ・子供たちに質問を投げかけたり、クイズを出すなど双方向の学習となるよう心掛けました。子供たちが積極的に挙手し発言をしてくれ主体的に学んでいる姿が印象的でした。授業後半の小グループでの話し合いには民生委員さんのお話を素直に聞く姿や子供たち自身が祖父母の話や実体験なども含めて自分事として「誰にとってもあたたかく住みやすい街」を考えている姿に感動しました。「困っている人やヘルプマークを付けている人がいたら声をかける」「自分で対応できない時は周りの大人の協力を呼び掛ける」「電車等で席を譲る」など沢山のあたたかい意見をお聞きし、みんなの誰かを思いやる気持ち、あたたかい気持ちがあたたかい街に繋がっていくのだなと感じました。

3 次年に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

- ・無理は承知なのですが、時間が短かったです。もう少し時間が多いか、生徒さんが少なければ、もっと突っ込んでお話できたかなと思います。
- ・事前の時間的な余裕がありましたら、関係機関の皆様とも事前打ち合わせなどを行い、授業の目的や進め方などを共有できれば良いのではと感じました。

ふれあい学習 児童アンケート（抜粋）

- ・障害のある人や高齢者の人にヘルパーの人や機械だけでなく、周りにいるぼくたちも協力していきたいと思った。
- ・言われた言葉を絵に書くゲームをした時、「ちょっと」「ちゃんと」などの言葉は知的障害の人だけでなく、わたしたちも受け取り方が違うことがあるんだなと思いました。
- ・生活をしている中で、私達は不便だと思わなくても、障害のある人や高齢者は不便に感じていることがあることが分かりました。私達にできることがあれば協力したいなと思いました。
- ・これから、手話についてもっと知りたいです。
- ・いっどこでも思いやりが大切だと思いました。
- ・これまで障害がある人のことをあまり考えたことがなかったのですが、これからは気づかいを大切にします。
- ・自分たちが普段、なにげなくやっていることを障害のある人たちは、いろいろな工夫をしていることを知りました。
- ・障害がある人は、サポートがあつたりすると安心できるというのが分かったので、大変だったら手伝いたいです。
- ・ピカチュウ王国で言葉が分からなくて困って、知的障害の人の気持ちがよく分かりました。
- ・車いすのひとはエスカレーターや階段をどうやって移動するのか気になりました。耳の聞こえない人は道などを聞かれたらどうこたえるのか気になりました。
- ・知的学習で計算が苦手だったりするけど、暗記するのは早い人もいると例えて教えていただき、人一倍良いところがあるのを知りました。
- ・聴覚障害者にとって、手話はコミュニケーションをとる上でとても大切な手段だということが分かりました。手話を教わった時に覚えるのがとても大変だったので、とてもがんばって覚えたというのが分かりました。
- ・車いすを体験して、体育館は段差が少ないけど実際は地面がでこぼこしていて、前に進むのが難しいと感じた。
- ・私の近くに高齢者はいるので、その人に話を聞いてみて、どういうことが不便か分かったら、私も行動を変えてみようと思います。
- ・今回は来ていただきありがとうございました。とても思い出に残る経験になりました。
- ・ピカチュウ語みたいのがあったんですけど、ジェスチャーで物を表していて分かりやすかったです。また聞きたいです。
- ・困っている人に、みんながよりそってあげることで、ちょっとでも楽になってもらえるといいと思いました。
- ・アイマスクをつけたとき、目が見えないまま歩くのが、とてもこわかったです。
- ・身の回りの不便を見つけるには、自分にとっての便利を見つけることが大事。
- ・障害のある方とふれあって勉強できることは、ほとんどなかったのですが、このような機会があつて、とてもうれしいです。

まち歩き学習（学校周辺） 児童アンケート（抜粋）

- ・もともと住みやすいと思っていた町が、違う立場になると課題がたくさんあるということが分かりました。
- ・視覚障害の体験をしたとき、ゴミ捨て場のネットが白杖にひっかかり、とるのが大変だった。
- ・どのように声をかけたら、安心してもらえるかを考えた。高齢者がよく見えていないところをよく見て、気づいてあげるのが大切だと思いました。
- ・歩道を広くしないと通りにくいところがあった。
- ・車いすでは急な坂が通りにくいことが分かった。
- ・道が細かったり、ガタガタしていてすごく通りにくかったのをそこを改良してほしいです。
- ・実際に体験してみて、いつもの道がすごく怖く感じました。
- ・車いすの人からしたら点字ブロックでガタガタなって不便と感じた。
- ・今回は、知的障害の視線で見たけど、急に道を歩いている時、止まってしまったり、うろうろしてしまったりすることが分かりました。急に話しかけるのではなく優しく声かけをしたいです。
- ・高齢者の体験で、視界がせまく、ぼやける中、道を歩くということは、とても大変で不安なことだと分かりました。坂や信号は特に怖かったです。
- ・介助していて車いすに乗っている人に段差を乗り越えさせるのがとても難しかった。
- ・今日、自分たちの町とさいたま新都心を比べてみて全く違ったので、私たちにできることを精いっぱいやろうと思いました。
- ・点字ブロックがあると進んだり、止まったりする場所が分かってよかった。
- ・お年寄り目は見えにくくなり、視界の色も黄ばんでいました。足元が見えないので下り坂や上り坂はつらかったです。
- ・とても楽しく学習できたし、このような体験は貴重なものです。大人になったら、ふるさとをもっと良くできると思うので、がんばりたいです。
- ・知的障害の人は見た目では分からないけど、自分たちと違うところもあるので、そこに気づいて声をかけてあげたりできたらいいと思いました。

まち歩き学習（さいたま新都心駅周辺） 参加者アンケート（抜粋）

令和5年1月17日（火）

1 今回の授業（さいたま新都心）に参加してのご感想をお聞かせください

- ・さいたま新都心駅が誰もが利用しやすい取組を行っているということを実際に自身の目を見て、また、ガイドの方が分かりやすく説明してくださったことで、児童にとっても良い学びの機会になったと思う。
- ・寒い中、子どもたちも熱心に耳を傾ける様子があり、興味を持って取り組んでいる様子が見られました。私たちが当たり前のように目に見えるものも丁寧な説明を聞くと、意味が良く理解でき、将来を担う子供たちに良い勉強になったと思います。
- ・さいたま新都心駅、スーパーアリーナを違った視点で見学でき、とても勉強になりました。

2 児童の気づきや言葉で印象に残っているものがありましたらお聞かせください

- ・見学の最後に児童それぞれが自身で気付いたこと、思ったこと等を自ら発信する機会があったことで、それぞれの児童が更に理解を深められたと思う。また、児童一人一人が学ぶ姿勢を強く持っていたように感じた。
- ・説明とは別に、児童が階段を下りる手すりに、点字がはってあることに気づいていました。自分で気づく力がついていると感じました。
- ・駅での集合では、遠足気分で生徒は目を輝かしていましたね、運動会座りは冷たかったかな。しっかり聞いている生徒もなかなか落ち着かない生徒でもしっかり理解したと思います。

3 次年度に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

- ・ボランティアの方が多くいたため、大きなトラブルもなく実施できたと思う。ただ、当日風が強かったこともあり、説明が少し聞こえにくい時もあった。
- ・時期が冬になってしまったので、少し早め、秋ごろにまち歩き学習ができたらと思います。
- ・説明のボランティアの方は大変だけど、4グループの人数は多かったかな。改札前では雑音で説明が聞きづらかったので、集合場所の検討やハンディマイクの用意が必要かと思います。

まち歩き学習（学校周辺） 参加者アンケート（抜粋）

令和5年2月2日（木）

1 今回の授業（まち歩き学校周辺）に参加してのご感想をお聞かせください

- ・子どもたちの一生懸命さに驚きました。
- ・季節的に、寒さや強風が心配だったが、無事に終わって良かったと思う。ただ、いつものことながら、まち歩きで知的障害のことを理解してもらうのは、難しいと感じた。
- ・ふだん小学生の方々と触れ合う機会がないので、新鮮でした。講師としての参加でしたが、こちらも学びを得て、たいへん良い機会となりました。児童の皆さんが、「世の中にはいろいろな人がいる」ということを、身をもって学んでくれていたらいいなと思います。
- ・生徒さんたちからの声にもあったのですが、今までと比較して、道路が狭かったり、ごみ捨て場が歩道を狭くしていたりと、街歩きには大変なコースだったのですが気づきが多かったと思います。
- ・児童の皆さんが元気よく、それでいてしっかりとした学習意欲があり、とても関心致しました。このような当事者と直接的に関り、体感するような学習が増えることを切望します。私は車いすで生活されている身体介助が必要な方に介助者を派遣する事業を行っておりますが、改めて当事者の方にとって不便を感じる人が多いことを再確認することができました。このような学習をうけた児童の皆さんが今後どのようなまちづくりを見据えていくのか期待しています。
- ・前回のふれあい学習と続けて今回はまち歩き学習に参加させていただきました。子供達と街を観察しながら歩いてみると、普段、業務の中で日進地区を自転車で行っている時には気付かない多くの段差や亀裂、凸凹などに気付かされました。高齢者が自転車で転倒等、よく耳にするので、健康なうちは気が付かない街中の段差や障害物等、危険箇所が多くあるのだと感じました。

2 児童の気づきや言葉で印象に残っているものがありましたらお聞かせください

- ・今回は質問が、歩いている時も、体育館でもほとんど無くて残念だった。
- ・電動車椅子だと、少しの段差や障害物にも気を配らなければならない、ということに気づいてもらえたようでした。
- ・「ごみ置き場が歩道を狭くする」、「車いすは何種類あるのか？」など私もたちも普段見過ごしている質問や意見が印象に残りました。
- ・まち歩き学習の車いす体験において後半の学校の側面を歩いていた際、電柱などではなくゴミの集積が道を狭めていたことに児童の皆さんが驚かれていた印象があります。道の細さ、曲がり歩合など多様な人と共存する際のまちづくりのみならず、もう少し拡大した都市計画のようなところにも着眼されている児童の方がいたのかなと感じます。
- ・役割を交換しながらまち歩きをすることで、相手を思いやりながら相手が危なくないよう、不安な気持ちや怖い気持ちにならないよう介助役が声をかけていることが印象的でした。学区内は歩道が狭いが車通りが多く、ゴーグルをしていると車が近づいてくことに気づきにくく、怖く感じたとの気づきがありました。子供たちは、新都心のまち歩きもしてきたとの事で、自分たちの学区内の街と比較して考えている様子も印象的でした。

3 次年度に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

- ・子どもたちとずっと会話できる時間があれば良いと思う。
- ・知的障害の場合は体験が出来ないので、役割分担はいら無いと思う。
- ・ぜひ次年度以降もこのような機会を設けていただければなと思います。
- ・車いすで生活する障がい当事者の皆さんは身体を動かさない分、実施の時期ですと非常に寒く感じます。さまざまなカリキュラムの中で行われているかと思いますが、もう少し暖かい時期に実施頂ければ道中の交流がより円滑に行われるのではないかと思います。また、より身近な存在として児童の皆さんに認識して頂くためにも障がい当事者がどのような生活をしているかなど、その個々人のことについて知って頂ける時間が更にあると良いかと思ひます。
- ・初めて参加させていただきましたが、とても意義のある学習だと感じました。ふれあい学習を通して、地域共生社会や互いを思いやる気持ち、相手の立場を考えられる優しさなどに繋がっていくと良いなと感じました。またこのような機会がありましたらぜひご協力させていただきたいと思ひます。前回のアンケートにも記載しましたが、時間的余裕があれば関係機関と事前打ち合わせなどできるとより充実した内容になるかと思ひました。

まち歩き学習（さいたま新都心駅周辺） 児童アンケート（抜粋）

- ・毎週、さいたま新都心に行っているけど、ボランティアさんに習ったことは気づかなかったです。さいたま新都心がいい町なのを知ることができました。
- ・だれもが過ごしやすいように工夫されているのが分かりました。
- ・車いすの人向けに自動販売機に取手がついていたり、イラストやピクトグラムがあったり、日進の町にはない工夫がたくさんされていることが分かりました。
- ・みんなが同じように暮らせるために、トイレや自動販売機などに工夫がされていて、新都心はだれにでもやさしいまちだと分かりました。
- ・障害のある人だけでなく、子どもから大人、お年寄り、だれにでもやさしい町だと思いました。
- ・ほじょ犬のトイレがあることを初めて知りました。プライベートでもまた行きたいと思いました。
- ・階段の端が蛍光色に塗られていて、これなら、小さな子や目の見えにくいお年寄りにも分かりやすいと思いました。
- ・ボランティアの方の説明が分かりやすかった。
- ・バリアフリーで、エコ、景観、災害に強くて安心安全になっていて、さいたま新都心は住みやすい町だとかんじました。
- ・みんなが楽しく生活するためには、色々な工夫が必要なのだと感じました。
- ・自動販売機や点字ブロック、エレベーターの工夫がどんな時に役立つか分かった。体の不自由な方にも、やさしくてよいところだと思いました。
- ・どんな時でも、他の人達のことを考えて生活できたら、バリアフリーに近づけるのかなぁと思った。
- ・さいたま新都心に行って、バリアフリーな町はどのようなことか分かり、日北の町もバリアフリーな町にしたいと思った。
- ・見たことのないバリアフリーがあって、びっくりしました。
- ・少し意識して見るだけで町にはたくさんのバリアフリーがあってすごいと思った。
- ・普段、さいたま新都心に行くときは気にしないようなところに目を向けて、電線がなかったり、自動販売機が障害がある人にも使いやすくなっていることに気づけてよかったです。

学習発表会 参加者アンケート（抜粋）

令和5年2月28日（火）

1 学習発表会に参加してのご感想をお聞かせください

- ・皆さん一生懸命頑張っていました。
- ・前回までは、模造紙を使って発表する方法が多かったが、パソコンを使うように変わっていて、デジタル化が子供たちにも浸透していることを実感した。
また、どのグループも、この日の為に色々と準備した様子が感じられました。
- ・これまでの学習での学びを生かして、どのグループも「何が課題で、課題解決にはどうしていかなければならないのか、小学生という立場である今の自分達にできることは何なのか」を自分事として考えていて、とても素晴らしい学習だと感じました。発表においてはパワポの中にマイクラフトで作成した理想の街を織り交ぜながら、資料を作成されていたり、ICTの活用が素晴らしく、この子供たちが大人になって社会に出た時、様々な既成概念が刷新されていくような期待が膨らみました

2 児童の気づきや言葉で印象に残っているものがありましたらお聞かせください

- ・わかりやすいバリアフリー化についての発表が多かったが、閉会式の最後の児童の発表で、気持ちの持ち方と、思うだけでなく行動する大切さについての言葉が、特に印象に残った。
- ・「自分以外の人なら」「違う立場なら」と相手の立場、相手の気持ちになって考えることができた。自分たちはまだ子供だからできることは限られているけれど「何かできることはないか、関心を持つことはできる」「今の自分にできることを一生懸命考えること」「今の自分にできることを実行すること」等の言葉が印象に残りました。地域共生社会において必要なことは、ハード面のバリアを除くことも大事ですが、地域に生きる一人ひとりが「相手の立場になって考える」ことが重要なのだと改めて強く感じました。

3 次年度に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

- ・もう少し少人数のグループを作り、児童と直接話す時間がとれると良いと思う。
- ・一斉に多くのグループが発表したことで、とても聞き取りにくかった。グループの数を減らした方がいいのでは、と思った。
- ・前回までのように、障害別に発表してもらえれば、どのように伝わったかよくわかり、よかったように思う。感想もその都度言う方がいいように思った。
- ・子供たちが一生懸命に考え作成した発表をじっくりお聞きしたかったのですが、発表グループ数も多く、まわり切れませんでした。
- ・発表が同時進行だったので、隣同士の発表者の声の重なり等、やや聞き取りづらさがありました。声が小さめの子だと声もかき消されてしまい、折角の発表がもったいないなと感じました。発表の進行の仕方に関わらず工夫が必要かなと感じました。

学習発表会 児童アンケート（抜粋）

1 これまでの学習でわかりやすかったところはどんなところですか

- ・車いすの体験をして、車いすの人が大変だということが分かりやすかった。
- ・障害のある方や高齢者は、すべてのことができないわけではなく、できることもあるので、気持ちによりそうことが大切だということ
- ・高齢者や障害のある人との接し方や声のかけ方などを劇にしてお話してくれたこと。
- ・障害のある人が実際に体験したことをくわしく説明してくれたこと。
- ・話を聞くだけでなく、実物を見たり体験することができたこと。
- ・日進とさいたま新都心を実際に歩いてみて、バリアフリーなどを比べることができたこと。
- ・わからないことを聞いたら、すごく詳しく教えてくれたこと。

2 これまでの学習でわからなかったところや、もっと知りたいと思ったところはどんなところですか。

- ・介護をしている人の気持ちを知りたいと思った。
- ・障害のある人の家の中での生活についてもっと知りたい
- ・バリアフリーができていないところはどんな原因があるのか知りたい。
- ・目の見えない人用のスポーツについて、面白かったのもっと知りたいと思いました。
- ・障害の人がどうやって普段の自分のことをやっているのか。
- ・高齢者の視界が濁ることを知りましたが、どのくらい見えなくなるのか知りたいです。
- ・日進やさいたま新都心以外のまちのバリアフリー対策について知りたい。
- ・ほかの国のバリアフリーについても知りたい。
- ・知的障害の人にどんな声かけをしたら良いかもっと知りたい。

3 自分たちのまちがこれからどのようになっていったら欲しいと思いましたか。

- ・音の出る信号などをつけて、バリアフリーを進めてほしい。
- ・障害者も安全安心に暮らし、みんなが平等になって暮らしたいです。
- ・すべての人が不便なく、差がないまちになってほしい。
- ・新都心みたいに道路を平らにして、点字ブロックなどを付けて、だれでも歩けるようにしたい。
- ・まちの人や障害者のニーズを聞いて、だれもが暮らしやすいまちになってほしい。
- ・ちょっとしたことでもみんなで助け合えるやさしいまち。
- ・障害のある人や外国人でも差別なく暮らしやすいまち。

学習発表会 保護者アンケート（抜粋）

1 本日の学習発表会は、モデル地区推進事業と連携して行われています。この学習発表会に参加してのご感想、児童の言葉や発表内容で印象に残っているものがあれば、お聞かせください。

- ・新しい形の学習発表会に驚き、興味を持って参観させていただきました。子どもたちが多角的な視点を持つために大事な授業であったと思います。子どもたちの発表をもっと落ち着いた環境で聞きたかったとも思いました。
- ・電柱1本でも、大変な思いで通る方もいることを改めて考えさせられました。
- ・福祉のまちづくりというテーマ学習に取り組み、発表も素晴らしかったと思います。自分たちの考えを相手に伝えるための視覚にも働きかける工夫を入れた発表はそれぞれとても分かりやすかったです。
- ・学習発表会をすることで、地域のことを考える良い機会になったと思います。
- ・多くの体験や子どもたち同士の話し合いがこの学習発表会でよくわかりました。このまちを良くしていきたいという気持ちが伝わりました。
- ・発表内容が良かった。テーマを自分事ととらえて、調べたことをもとに実現可能な範囲で、策を考えることができていた。また、行動だけでなく、思いやりや心掛け等も含まれていたのが大変良かった。
- ・高齢者や体の不自由な方たちに対しての街づくりに対して一生懸命に取り組んだ様子が伺えました。バリアフリーの考え方が当たり前のように浸透していて良かったです。
- ・多くの児童が道路等のバリアフリーに課題を感じているようでした。自身が身近なものに興味を持つようです。
- ・車いすを体験してみて、不自由だと感じることができ、それをどのようにしたら生きやすくなるのかを考えられたのは、とてもよかったです。
- ・さいたま新都心のまちづくりを子どもたちが分かりやすく説明してくれて、私も勉強になりました。家庭でも話し合ってみたいです。
- ・自分たちの住んでいる日進北を福祉のまちとして整備されているさいたま新都心のように、誰でも住みやすいまちにしていかなければと、子どもたちが気付けたことが大きな成果だと思う。
- ・モニターを見ていると子どもが良く考えたり、調べたりしているのがわかりました。日進のまちもまだまだ住みづらいところもあるので、少しずつ変わっていったらいいですね。
- ・体育館が広すぎて発表の声があまり聞き取れませんでした。また、全部のチームの発表を見れませんでした。タブレットの映像を使っただけの発表が素晴らしかったです。

2 本日の学習発表会及びこれまでのモデル地区推進事業に参加され、お気づきの点や改善した方がいいと思われたことがありましたら、お聞かせください。

- ・体験学習の機会をもっと増やしていけるといいと思います、考える力が身につくと思います。
- ・このような経験をさせていただきありがとうございました。今後も地域とのつながり続けられるような学習があると子どもたちの意識も変わっていくと思います。
- ・たくさんの方々のご協力のもと、子どもたちが実際に体験をしながら福祉のまちづくりについて学べたこと、ありがたく思っています。色々な気づきがあったと思うので、今後の生活や学習にも活かしていけたら良いと思います。

発 行

〒330-9588

さいたま市浦和区常盤6-4-4

さいたま市保健福祉局福祉部福祉総務課

電 話 048-829-1254

FAX 048-829-1961